

患者の皆様へ

2023年1月15日
消化器内科

現在、消化器内科では、「当院における自己免疫性膵炎についての臨床学的検討」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では2020年1月から2025年3月に千葉大学医学部附属病院で自己免疫性膵炎や慢性膵炎、IgG4関連疾患などに対して診療を行った症例の診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名

当院における自己免疫性膵炎についての臨床学的検討

2. 研究の意義・目的

自己免疫性膵炎には1995年にYoshidaらにより本邦で提唱された疾患概念であり、自己免疫学的機序により、膵実質の炎症からの膵内・外分泌機能障害や、IgG4関連疾患としての硬化性胆管炎や唾液腺炎、間質性腎炎などといった膵外病変を生じることによりさまざまな症状を引き起こします。また時に炎症に伴い膵内に腫瘍性病変が形成され、がんなどの悪性腫瘍との鑑別を要することもあります。病理像では、膵実質へのリンパ球および形質細胞の浸潤と線維化、IgG4陽性の形質細胞の浸潤を認めることから、治療としては抗炎症作用のあるステロイド治療がよく効きますが、再燃例も一定数みられることが日常の診療では問題となります。ステロイド投与によって自己免疫性膵炎の免疫学的な機序が健全化される例とそうでない例が存在することも示唆されていますが、ステロイドにて炎症自体が治癒しているのか、炎症が抑制されているだけなのかもわかっていません。そこで今回当院で診療を行っている自己免疫性膵炎の症例について、再燃例も含めてその臨床学的特徴について検証することを目的に本研究を行っています。

3. 研究の方法

2020年1月から2025年3月の間に、自己免疫性膵炎に対して治療を行った患者さんの

診療情報(年齢、性別、人種、身長、体重、飲酒量、ステロイドを中心とした治療薬剤の種類や投与量、投与期間、合併症、既往歴、内服薬、生存期間、治療後の症状再燃の有無、血液検査値、組織所見、画像所見など)を使用し検討を行います。またこれと類似しており鑑別を要する疾患である、慢性膵炎や IgG4 関連疾患などについても診療情報を使用させていただきます。

4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名や年齢などを削除し特定の個人を容易に識別できないように加工をして利用します。それぞれ研究用の ID を付与し、ID と氏名を一致させるための対応表は、外部に漏れることの無いように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は千葉大学大学院医学研究院消化器内科学教室の鍵のかかる保管庫で保管します。

6. 研究組織

加藤 直也（千葉大学医学部附属病院 消化器内科）

大山 広（千葉大学医学部附属病院 消化器内科）

山田 奈々（千葉大学医学部附属病院 消化器内科）

7. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省・経済産業省による「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院消化器内科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院消化器内科

医師 山田 奈々・大山 広

043 (222) 7171 内線 5241

研究代表機関 : 千葉大学医学部附属病院消化器内科

研究代表者 : 加藤 直也